

■ ■ 現場レポート NO. 4 ■ ■

ICTを活用した未来の授業

～総務省フューチャースクール推進事業・公開授業（長野市立塩崎小学校）～

平成 23 年 12 月 1 日

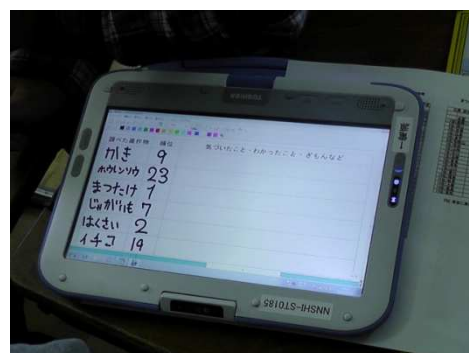
全国 10 の小学校に、ICT環境を構築し、児童 1 人 1 台のタブレット PC、インタラクティブ・ホワイトボード（電子黒板）を用いた授業を実践する総務省フューチャースクール推進事業。

昨年からはまったこの事業に、長野市立塩崎小学校が参加しています。

12 月 1 日に実施された公開授業の 4 年西組「社会」の授業を見学させていただきました。

教室に入ると、子どもの小さな机の上には、小さなタブレット PC（無線 LAN 環境のため、ケーブルはありません）と筆箱だけが置かれ、教室には大型テレビのような外観の電子黒板が置かれています。

授業が始まり、子どもたちがタブレット PC の画面を開くと、前回の授業の学習問題「長野県ではどんな農作物がたくさんとれるのだろう」について、子どもたちがタブレット用のペンを使って書き込んだ内容が表示されています。（書き込んだ内容はサーバに保存されているとのこと。）



先生が子どもたちに、前回の授業でどんな予想をしたのか問いかけます。発表する子どものタブレット PC の画面が、瞬時に電子黒板に映し出され、クラス全体で発表内容の情報が共有されます。（先生が座席表をペンでタッチすると、子どものタブレット PC の画面が電子黒板に映し出されます。）



続いて、今日の学習問題は「長野県で生産が多い農作物を調べよう」。二人ひとくみになり、一人がタブレット PC のアプリケーションであるデジタル教科書の統計資料を使って作物を調べます。もう一人が調べた内容を書き込むのですが、タブレット PC の画面を倒し、ノートに文字を書くように電子ペンを使う姿は、すっかりタブレット PC を使いこなしています。



塩崎小学校の取組は、教育分野における ICT の利活用を推進するための実証実験の位置づけですが、デジタル機器の使い勝手の問題や、授業にどのように機器を効果的に取り入れていくかなど、まだまだ手探りの段階です。機器を使うことが目的の授業ではなく、子どもの理解を高めることにつながる機器の活用方法についてはこれからの課題ですが、子どもたちが何の抵抗もなくタブレット PC を使いこなす姿を見ていると、これからの学校の授業はどう変わっていくのだろうと、フューチャースクールの可能性を感じました。

（文責 教育総務課 下平あゆ美）